

## ○ 平成 28 年度事業実施状況概要

### 1 事業実施概要

平成 29 年 4 月 1 日「社会福祉法等の一部を改正する法律」の全面施行に向け、10 月に開催した理事会・評議員会において、「定款の変更」、「評議員の選任・解任委員会の設置及びその運営細則」、「次期評議員候補者の選任」について承認を得て必要な体制を整備した。

また、発足から 2 年を経過した「財源基盤の確立及び中長期計画の策定検討委員会（以下、「財中委」という。）」では、安定経営が評価されている社会福祉法人にベンチマーキングするほか、福祉医療機構に経営コンサルタントを依頼する等、より客観的な視点に基づく活動を推進した。一方で、老朽化した施設の建て替えや、地域ニーズを踏まえた新たな事業展開等については、各地区における行政の福祉計画や財源及びその確保策について、情報の収集と分析が不十分なため、明確な行動計画を策定するには至らなかった。

なお、平成 28 年 10 月 27 日初代総裁三笠宮崇仁親王殿下のご薨去に伴い、11 月 4 日斂葬の儀に会長・理事長・常務理事が豊島岡墓地を参拝し、併せて、全職員・全利用者が可能な限り一斉に黙祷を捧げご冥福をお祈りした。年度末に発行した法人機関紙「ゆうあい」では、記念誌資料等で主な御事績を掲げ、御遺徳をお偲び申し上げた。

### 2 本年度の重点計画に基づく事業の実施状況

#### (1) 地域における公益的な活動の推進

東社協が推進する「東京都地域公益活動推進協議会」への参画により活動の具体化を図る予定であったが、活動会費の負担が大きいため年度末には同協議会を退会した。当面広域的な活動は保留することとし、世田谷区社協が推進する「社会福祉法人地域公益活動協議会」へ積極的に参加した。世田谷区内に法人本部を置く 46 法人中、36 法人が会員となり 6 月に同協議会が発足した。当法人の理事長が推薦を受けて初代代表幹事に就任し、同協議会の今後の活動を企画運営する委員会には、砧地域包括支援センター長が立候補し 9 月から協議に参画した。

また、これまで築いてきた地域との連携実績を前年度に引き続き記録した。世田谷施設においては、地域のお祭りの他、防災訓練や交通安全に関わるイベント等へ積極的に協力し、年間の活動は延べ 950 時間（うち勤務時間内が 340 時間、有志としての活動が 610 時間）の実績となった。

#### (2) 法人組織の体制強化

法人全体を包括した経営資源（ヒト・モノ・カネ・情報）の管理をより強化するため、まずは全施設長会議において全事業の稼働状況と収支差額の経過や課題及び対策等を隔月で共有した。

総務部長が、既存の各種委員会の目的と成果のあり方等について改めて整理するとともに、教育委員長として職員の研修体系を見直した。併せて、男女共同参画委員会を部内の下部組織と位置づけワークライフバランスの推進を図り、前期には同委員会の提案に基づき、女性が活躍できる雇用環境の整備を行うための「一般事業主行動計画」を策定し、東京労働局に届け出た。

#### (3) 経営基盤の確立

年々厳しくなる経営環境において最低でも法人全体の収益率を 2%に引き上げ、地域社会から期待される事業の継続と展開が可能な経営を確立する必要がある。経理部長の提案により、まずは法人本部経費の按分方法を各事業の利用定員割から就業人員割に見直すとともに、本部の積立金は収支差額が黒字となっている事業から適切に拠出することとした。

また、福祉サービスの最大の支出科目である人件費は、サービスの質と職員のモチベーション

に直結するため低ければ良いというものではなく、いかに職員一人当たりの生産性を向上させるかが重要である。その対策は「事業使命を果たすために、絶えず利用定員を満たし様々な加算取得を目指すこと」と「不要不急の経費を削減して、各種補助制度を最大限活用すること」に尽きるということ、改めて共通認識した。しかし、今年度は行政の実地検査において各種加算等の要件を満たしていないことが確認され、総額で約 1300 万円の返還となった。二度と同様の事態を招かないよう業務の役割を明確にしチェック機能の強化を図った。一方で東京都のモデル事業を獲得し約 500 万円の補助を得ることができた。

#### (4) 世田谷施設の建て替え・改修工事等の推進

重度障害者の入所機能を強化する方針に基づき、旧世田谷更生館を取壊して友愛園を新築する方向で協議を進めるとともに、本館・別館の屋上防水工事、給湯ボイラー更新、空調設備改修等については、大規模修繕の補助が得られるように、いずれも世田谷区や東京都の所轄及び専門業者から十分な情報収集と協議を急ぐこととし、計画の具体化に着手した。

なお、本館ダムウォーターの改修工事を安全の確保のため急遽 6 月に実施した。また、懸案であった別館エレベーター入替え工事は、共同募金の助成を得て予定どおり 8 月に完了した。この工事に先立ち、友愛園利用者等の雨天時の通路確保のため、7 月に本館・別館の玄関を結ぶ動線上に大型の屋根を設置した。

#### (5) ISO 9001:2008 サーベイランス受審等の見直し検討

今年度は、「受審中止」も選択肢に含めた検討を継続したが、11 月には第 2 回のサーベイランスとして引続き P J R 社の審査を受け、「軽微な不適合 1 件」の是正により ISO の認証を継続することとなった。次年度は、改めて「安全安心なサービスの質の向上」を目的に、新たな規格 9001:2015（リスクマネジメント強化対応）に基づく更新審査を受けることとした。なお、審査機関については、福祉サービスの審査実績が豊富で、適切な指摘等により効果的な改善の機会が期待できる「一般社団法人日本能率協会」との契約を予定した。

一方で、平成 31 年度から会計監査が義務付けられることを踏まえると、その経費と ISO 認証に掛る支出を負担することは困難と想定しており、引続き検討を継続することとした。

#### (6) 職員確保と人材育成

新しい法人理念を表紙とした「法人の全事業を紹介するパンフレット」を 24 年振りに作成した。職員採用において様々なツールが想定されるが、法人の概要を示した冊子は必須のアイテムであり、遅まきながらもその初版を発行できたことは極めて有効であった。

財中委においては、2 箇所の福祉法人に出向き「職員の採用や育成の手法」についてヒアリングを行った。同様の手法を導入するという方向性は見出さなかったものの、いずれも強固なトップマネジメントが機能しており参考とすべきことは多かった。これらも踏まえ、財中委では当面職員確保に向けた具体策は現状維持に留め、人事制度の再構築を優先した協議を推進した。まずは法人の事業計画と予算を掲げ、各事業はこれに適合した具体的な目標を示し、その目標達成に向け、各職員がいかに貢献できたかを評価する仕組みを目指すこととした。

#### (7) 首都圏直下型地震への対策

各事業所は福祉避難所として行政との協定を締結しており、利用者や職員はもとより近隣の被災者を支援するために、発災後最低 1 週間は自力で生存するための備蓄と最低限の手順が不可欠であることを共有した。今年度は「大震災発生時の事業継続計画（BCP）策定指針」を Y S として発行し、各事業所の実情に応じた BCP 初版の策定を目指したが、特に通所や相談支援の事業では、関係機関との連携を前提とする課題があり、多くの事業所において協議のみに留まった。

#### (8) 各事業所の主な事業計画の実施状況

#### ① 世田谷施設

重度障害者の入所系事業を強化することを方針とし、大規模改修にあたっては世田谷区や東京都の所轄及び専門業者と十分な協議を図りハード面の課題を発展的に解決するロードマップを具体化することとしたが、当面、区道の課題解決とともに友愛デイサービスセンターの友愛園1階への移転計画を先行して推進するに留まった。

#### ② 世田谷更生館

対定員利用率は目標値72%を若干下回る70.18%となったものの、計画的な新規利用者の受入れを継続した結果、4期連続して黒字を達成した。

就労移行支援事業2名、就労継続支援事業B型1名の利用者が、採用面接、企業実習を経て、一般就労を実現した。生産活動においては、既存取引先からの受注が減少する中、新規取引先からの受注が好調に推移し、目標値の平均時給302円を上回る313.6円（就労継続支援事業B型）の工賃支給となった。

昨年7月に相模原市の障害者支援施設で発生した殺傷事件を踏まえ、防犯対策を検討し、その対応方法を定めた他、利用者支援の充実を目的としたタイムレコーダーの導入、日没に合わせ早期自動点灯を可能とする照明設備への改修、作業台の更新等、「安心・安全」な活動環境の整備を推進した。

#### ③ 友愛園

年度末の利用者数は、目標52名に対し43名（定員60名）となった。主な理由は、利用者の高齢化により高齢者施設等へ転出されるケースが増加している。

日中活動は、クラブ活動のほか、集団外出活動、個別の外出支援を行った。更に、屋内でのレクリエーションなど多様なプログラムを提供した。生産活動については、今年度からは活動時間を午前のみと短縮したにも関わらず生産過程の効率化を進めることにより、前年度並みの工賃を支給することができた。

施設整備については、老朽化した別館エレベーターを新しい機種に交換すると共に、厨房のシステムコンベクションを交換した。

#### ④ 東京聴覚障害者支援センター

福祉サービス第三者評価を6月から受審、10月にフィードバックを行い予定通り実施した。

防犯強化のため防犯カメラ受像モニター機器などの設置について、関係機関等と協議の上、10月に取り付け工事を行い、安全性の向上を図った。

平成29年5月板橋区と「災害時における福祉避難所としての施設使用に関する協定」を締結した。災害用品、設備等の整備については引き続き自治体（板橋区）と協議を行っていく。

耐用年数が経過している高圧受電設備の更新、メンテナンスについては委託業者と連絡を密にし、安全な維持管理に努めていく。

#### ⑤ コーポ友愛

6月と12月に懇親会を開催し利用者及び職員との交流を促進した。劣化が目立った電化製品の入れ替えを進め、また、除菌脱臭機の購入と併せ提供する生活環境の向上に努めた。

#### ⑥ 友愛デイサービスセンター

3月に災害時の帰宅困難を想定した宿泊訓練を実施した。参加利用者は少なかったが、備蓄品の確保のみならず夜間の利用者の状態変化やその対応に多くの課題を確認することができた。また、感染症の発生時期には、他施設と連携し利用者の交流を制限したり、職員の家族が感染症に罹患した際は、新たに規定した出勤基準に則して対応し、感染症の発生を防止することができた。

## ⑦ 友愛ホーム

今年は、開設 60 周年の節目の年にあたり、12 月 22 日に 60 周年記念祝賀会を賑やかに行った。同時に 60 周年誌を発行し関係機関等へ配布することができた。他方、収支状況は、前年度までは赤字が続いたが、利用者の重度化に伴い重度化加算対象者が増加したことから、その分の補助金収入を得ることができた。また、入所充足率向上の活動は充足率 98.9%を維持し措置費収入の増加に繋がった。支出の面では、全職員が意識的に節約活動に励み支出抑制を行った。これらの活動の結果、目標の収益率を大きく上回る黒字化を達成した。

## ⑧ 友愛荘

近隣の保育園や障害者施設との新たな交流を始め、「ゆうあい広場」で勉強会や料理教室を開催し、地域交流が活性化された。

また、職員からのボトムアップを図るため、委員会活動を活性化させ職員の自主性と意欲向上に繋げる取組みを始め、各部署で積極的に活動する様子が見られた。

ベッド稼働率については、年間を通じて長期入院者が多かったため、空床利用のショートステイでカバーしようとしてみたが、目標を達成することができなかった。稼働率アップと経営の安定化に向けて、利用者獲得の対策を見直し営業力の強化を図る。

法人としての重点項目でもある首都圏直下型地震への対策については、BCP の初版を完成させた。訓練内容に AED 講習を取り入れ、利用者の急変時や災害時に対応できる職員を増やした。

## ⑨ 砧ホーム

年間でのベッド稼働率 99.1%を達成し目標値を上回ることができた。サービスの質においては、「持ち上げない介護」の推進の下、介護リフトの発展的な運用や、安全・衛生活動の拡大と取り組みの充実を図り、「東京都ロボット介護機器・福祉用具活用支援モデル事業」の施設に選定される等、他法人からも注目を集める実践を展開した。その反面、介助中の事故により 2 名の利用者が骨折されたことは痛恨の極みであり、改めて「職員間の情報共有の強化」、「高齢者の身体特性」、「適切な福祉用具の活用」について、具体的な事例に基づく研修を強化することとした。その一方で、職員の採用が非常に困難な状況が継続したため、年度末には 3 グループから 2 グループへケア体制を見直し、より少ない人員で質の高いケアローテーションを維持する検討と試行を開始した。

## ⑩ 砧デイサービスセンター

利用率向上のために集客手法及び活動内容を総合的に見直した結果、新規利用者確保については過去 5 年中最高の実績となった。併せて、職員体制を見直し収支の改善を図った。しかし、10 月の世田谷区実地指導では加算の要件を満たしていないことが判明し介護報酬を約 220 万円返還することとなった。さらに、認知症対応型通所介護については、職員配置の要件を満たすことが困難と判断し、本年度末で事業を廃止した。

一方、「サービスマナーと質の向上」を目的にサービス係会議と勉強会を毎月開催し、職員の専門性向上への意識が高まり、主体的に学習テーマを提案できる風土を醸成した。

## ⑪ 港区立障害保健福祉センター

### ア 運営管理部

給食業者とプール管理業者の契約が今年度で 3 年目を迎えたため、プロポーザル方式による入札を実施した。結果として同じ業者と平成 29 年以降も契約することとなった。

### イ 地域活動支援センター等

地域住民参加の障害者スポーツ体験としてボッチャ大会を開催した。また、各事業に関わ

るボランティア等との懇親会を実施した。いずれも初の試みであり、障害への理解とセンターへの認識を深めてもらう機会として今後も継続することを計画している。

機能訓練、相談支援各部門では、パンフレットの配付、事業所説明会の実施、研修会への参加、各種連絡会・相談会への参画を通じて関係機関との連携を強化した。また、組織としては、人員配置増、業務内容の見直し等によって利用者のニーズに即した支援を提供するための体制作りを進めた。

#### ウ こども療育パオ

今年度は、行動制限等の具体的な行為を洗い出し、医療面や行動面での安全確保、教育的、社会的配慮等、パオでの個別の必要性や実施方法について検討を進め、マニュアル化に必要な情報収集を行なった。平成29年利用児対象のオリエンテーションでは、行動抑制に関する保護者からの同意が得られるよう全体への説明を行い、4月に実施する個別面談において個別対応への同意を得られるよう準備を行った。

#### エ 工房アミ

通常のクラスごとの活動に加え、障害種別毎の活動を少しずつ増やしている。障害種別グループでの外出や余暇時間にクラスを超えた取り組みを行った。また、地域のボッチャの練習会に一部利用者が参加し、地域との交流を広げた。

#### オ みなとワークアクティ

高齢化、障害の重度化により利用者が減少傾向にあるなか、毎日、その日一番がんばった利用者に「がんばり賞」を与え意欲を向上させた。利用者1人ひとりの個性に合わせた仕事の配分に努めた。あらたな仕事に関心をもった利用者は意欲的な姿勢を示すなど、成果をあげることができた。

バス外出、調理実習など行事の内容を充実させ日常活動を多彩にすることにより、高齢化、重度化に対応し利用者の施設への期待感を上げることができた。

区内の社会福祉法人ならびに株式会社の就労移行支援施設、就労継続支援B型事業所との交流に努め情報共有を図った。

#### カ 障害者レスパイト事業等

ショートステイ、緊急一時保護及び自立生活訓練の状況は、ほぼ例年通りの利用数であった。土日、祝日の利用希望が多く、お断りをするケースが継続されているため、平成29年1月から改修工事を行い、2部屋を増床した。平成29年度6月から運用を開始する予定である。

#### ⑫ 砧地域包括支援センター

介護予防・日常生活支援総合事業が開始され、介護予防マネジメントの業務手順を整備した。世田谷版地域包括ケアシステムの構築に向けて、地域や関係機関との連携を推進した。

#### ⑬ 第一作業所（友愛書房）

売上については、PRの効果か厚労省以外の官庁からの大口注文により、僅かではあるが前年を上回ることができた。

#### ⑭ 砧介護保険サービス

事業の質の向上を目指し「特定事業所加算取得」に向け準備を進めたが、職員体制が整わなかったため、同取得時期を次年度以降に変更した。

### 3 平成28年度 社会福祉法人友愛十字会「方針書（目標）」に対する結果

区分	方針 No	方針内容	対象	目 標	
				管理項目	目標値と結果
A 経営 財務	A1	地域における公益的な活動の推進	法人本部 全事業	社協・地域との連携	活動の実践化→計画協議の参画に留まった
	A2	法人組織の体制強化		評議員会・理事会等の再編	完了
	A3	経営基盤の確立		収益率の進捗	2%達成→未達成
	A4	世田谷施設の建替・改修工事等の推進		関係機関との協議進捗	工程確定→未達成
B 品質	B1	ISO 9001:2008 サーベイランス受審等の見直し検討	全事業	MSの維持向上	方針決定と計画化 →検討継続
C 人材 育成	C1	職員確保と人材育成	法人本部 全事業	人事制度（教育・評価・給与システム等）の再構築	実施計画の具体化 →未達成
D その他	D1	首都圏直下型地震への対策	法人本部 全事業	全事業所BCPの策定	初版完成→未達成

### 4 各種計画の状況

(1) 主な会議の開催状況（年度当初の計画を見直した。以下は法人全体に関わる会議のみ記載した。）

名 称	目 的	開催頻度	開催実績
理 事 会 評 議 員 会	法人の経営上の重要事項に関する審議議決を行い、業務執行の基本方針を決定する。	年3回	4回 4回
経 営 会 議	法人の経営上の重要事項に関する課題別作業委員会を発足し、その報告を基に業務執行の基本方針を審議する。	毎 月	12回
経 営 委 員 会	法人の経営上の重要事項に関して審議する。	適 時	3月に3回
全 施 設 長 会 議	法人各施設の運営に関する重要事項の審議と各施設間の情報交換及び連絡調整並びに ISO 9001:2008 要求事項の「マネジメントレビュー」	毎 月	12回
MS（マネジメントシステム） 検 討 委 員 会	業務の標準化に関する計画立案と推進	年6回	6回
教 育 委 員 会	職員教育に関する計画立案と推進	年6回	5回
苦情解決委員会	各施設が提供する福祉サービスに係る利用者等からの苦情の円満解決を図る	適 時	なし

(2) 防災訓練の状況

月	世田谷施設		東京聴覚障害者支援センター		友愛荘		港区立障害保健福祉センター	
	時間	出火場所	時間	出火場所	時間	出火場所	時間	出火場所
4	昼間	砧ホーム	昼間	A棟2階居室	昼間	図上訓練	昼間	消防設備 避難路確認
5	夜間	友愛ホーム	昼間	消火訓練（中庭）	昼間	図上訓練	昼間	（各事業所での避難訓練）
6	昼間	友愛デイ	夜間	B棟2階居室	昼間	備蓄倉庫内整備	昼間	5階（火災想定）
7	昼間	コーポ友愛	昼間	講話・防災ビデオ	昼間	マニュアル確認	昼間	4階（火災想定）
8	昼間	砧デイ	昼間	B棟2階喫煙室	昼間	消防設備確認	昼間	7階（火災想定）
9	昼間	友愛園	昼間	合同訓練参加	昼間	地域合同防災訓練	昼間	3階（火災想定）
10	夜間	砧ホーム	昼間	講習（図上訓練）	昼間	消防設備 避難路確認	夜間	8階（夜間出火想定）
11	昼間	友愛ホーム	昼間	B棟2階ボイラー	昼間	普通救命講習（AED）	昼間	避難所設置訓練
12	夜間	友愛デイ	夜間	A棟3階居室	昼間	災害備蓄品確認	昼間	全域（地域合同訓練）
1	夜間	コーポ友愛	昼間	防災センター体験	夜間	2階（夜間出火想定）	昼間	1階（地震・津波想定）
2	昼間	更生館	昼間	B棟2階娯楽室	昼間	消火訓練（屋外）	昼間	防犯訓練
3	夜間	友愛園	昼間	地区防災訓練参加	昼間	1階厨房（火災想定）	昼間	備蓄物品確認

世田谷施設は成城消防署、東京聴覚障害者支援センターは志村消防署、友愛荘は忠生消防署の協力を得て実施した。なお、友愛荘と東京聴覚障害者支援センターは9月に、それぞれ区師町内会・町田福祉園、板橋区・地元町会と、世田谷施設は9月に砧町会と、港区立障害保健福祉センターは11月に福祉避難所開設訓練として炊き出し訓練、トイレ設置訓練等を実施した。また、世田谷施設は5月に、友愛荘は9月に炊き出し訓練を行った。

(3) 教育の状況(年度当初の計画を見直し、本年度の教育委員会主催の研修は以下のとおりである。)

分類	内容	参加者数	開催日
階層別 教育	新入職員研修 2日	29名	4/4~5
	新入職員フォローアップ研修 1日 原則平成27年4月2日から平成28年4月1日の間に採用した常勤職員を対象に、法人理念等の周知と協労意識の醸成を目的に開催した。	24名	10/14
事例 (研究) 発表 研修	業務改善事例や研究成果の発表を通じて、職員の専門技術や業務改善・改革に向けた資質の向上を図った。以下は発表題目と受賞結果である。 ①法的根拠に基づいた組織運営と、強固なサービス基盤 ～守りの施設から攻める施設へ～ (友愛園) ②リスクマネジメントへの第一歩～新たな取り組みと見えてきた課題～ (友愛デイサービスセンター) ③一泊旅行とマンツーマンサービス～要介護者の増加から～ (友愛ホーム) ④初めての導入でも継続的な運用につなげる介護リフトの選定に関する研究 (砧ホーム) ⑤介護業務における戦略的なシステム形成の意義とその効果 理事長賞(砧ホーム) ⑥利用者の地域生活の安全を考える～反社会的グループからの関係を切る～ 特別賞(東京聴覚障害者支援センター) ⑦利用者の経済的自立を目指した7年間の取り組み ～就労継続B型事業の現状と課題～ 優秀賞(みなとワークアクティ)	8名	9/25

(4) 苦情解決の状況

「友愛十字会苦情解決規定」の定めに対応する苦情の申入れは無かった。

(5) 「友愛十字会標準(Y S)」の整備状況

単位：件数

大分類 番号	内容	27年度末 保有件数	本年度の整備状況			28年度末 保有件数
			制定	改定	廃止	
0	総 則	6	0	3	0	6
1	品質マネジメントシステム	28	0	22	0	28
2	業務管理マニュアル	146	0	10	0	146
3A	指導票・解説書類(施設別)	845	6	28	71	780
4	規程・規則類	58	0	12	1	57
合 計		1083	6	75	72	1017

# 第1 法人本部

## 1 役員・評議員等の状況

### (1) 役員及び評議員

評議員の世田谷区社会福祉事業団理事長の佐藤健二氏が5月24日付で退任され、後任の古閑学氏を評議員に5月25日付で選任した。また、理事・評議員の墨野倉克則氏及び新垣洋氏が7月25日付で退任し、墨野倉克則氏を参与に選任した。

区 分	定 数	平成 27 年度 末の現在員数	平成 28 年度の異動		平成 28 年度 の現在員数
			新 任	退 任	
理 事	11	11	—	2	9
監 事	2	2	—	—	2
評議員	23(12)	23(12)	1	3	21(12)

備考 表中、「評議員」欄の数字は、併任する理事数を含むものとし、括弧内の数字は、評議員の専任者を再掲した。

### (2) 総裁及び顧問等

区 分	総 裁	顧 問	参 与
平成 28 年度 現在員	1	—	2

### (3) 平成 28 年度末の役員等の氏名(敬称略)

区 分	氏 名
総 裁	瑤子女王殿下
会長・理事・評議員	佐々木 典夫
理事長・評議員	小林 和弘
理 事・評議員	池 堂 政 満 三 根 武 山 崎 敏 遠 藤 浩 福 田 督 男 川 崎 裕 康
常務理事	金 井 博 (9名)
監 事	多 久 島 耕 治 高 梨 智 弘 (2名)
評 議 員	井 手 精 一 郎 高 木 金 次 寺 山 久 美 子 内 藤 壽 昭 高 橋 輝 雄 金 井 Pak 雅 子 桂 川 直 幸 江 藤 文 夫 若 林 貴 美 江 浅 井 浩 家 入 数 彦 古 閑 学 (12名)

### (4) 平成 28 年度末の評議員選任・解任委員の氏名(敬称略)

社会福祉法等の一部を改正する法律の施行に伴い、平成 29 年 1 月から設置

区 分	氏 名
監 事	高 梨 智 弘
外 部 委 員	岩 井 雄 一 大 島 公 子
事 務 局 員	江 原 徳 至 宮 崎 浩



## (5) 職員の採用及び退職等

事業所名	職員区分	平成27年度		平成28年度			
		年度末(3月31日)		4月1日～3月30日の		年度末(3月31日)	
		人員数	3月31日付 退職及び 異動減員	採用及び 異動増員	退職及び 異動減員	人員数	3月31日付 退職及び 異動減員
法人本部事務局	常	8名		2名	1名	9名	
	非	1名	1名			名	
世田谷更生館	常	11名	1名	2名	2名	10名	
	非					名	
友愛園	常	14名	1名	6名	6名	13名	1名
	非	6名	2名			4名	1名
東京聴覚障害者支援センター	常	10名			1名	9名	
	非	10名	1名	5名	2名	12名	1名
コーポ友愛	常	1名		1名	1名	1名	
	非	1名			1名	名	
友愛デイサービスセンター	常	10名	1名	2名	2名	9名	
	非	3名		2名	1名	4名	
友愛ホーム	常	14名	1名	4名	3名	14名	2名
	非	4名	2名			2名	1名
友愛荘	常	41名	4名	5名	5名	37名	4名
	非	18名	3名	5名	1名	19名	3名
砧ホーム	常	33名	1名	1名	2名	31名	1名
	非	8名	4名	2名		6名	2名
砧デイサービスセンター	常	17名	1名		2名	14名	1名
	非	5名		2名		7名	
港区立障害保健福祉センター 地域活動支援センター	常	19名	4名	6名	1名	20名	1名
	非	5名		2名		7名	
工房アミ	常	32名	1名	4名	3名	32名	4名
	非	2名		1名		3名	1名
こども療育パオ	常	28名	3名	9名	2名	32名	4名
	非	7名	5名	8名	4名	6名	1名
みなとワークアクティ	常	7名	3名	3名		7名	
	非					名	
砧地域包括支援センター	常	7名				7名	
	非					名	
友愛書房	常					名	
	非	3名				3名	
砧介護保険サービス	常	1名		2名	1名	2名	
	非					名	
合計	常	253名	21名	47名	32名	247名	18名
	非	73名	18名	27名	9名	73名	10名

備考 1 各施設の職員数欄の上段は常勤職員、下段（網掛け部分）は非常勤職員を掲載している。

2 法人内の施設間の異動は、便宜上表中の「採用」欄に「転入」を、また、「退職」欄に「転出」を含めて計上した。

## 2 役員会の状況

### (1) 第1回理事会・評議員会

- ① 開催日 平成28年5月24日(火)
- ② 開催場所 成城ホール4階 集会室C・D (東京都世田谷区成城6-2-1)
- ③ 議案
  - 第1号議案 平成27年度事業報告(案)について
  - 第2号議案 平成27年度各会計収支決算(案)について
  - 第3号議案 諸規程の一部改正について
    - (1) 経理規程
  - 第4号議案 理事の退任について
  - 第5号議案 役員等の改選、監事の選任、及び参与の選任について

### (2) 第2回理事会・評議員会

- ① 開催日 平成28年10月7日(金)
- ② 開催場所 成城ホール4階 集会室C・D (東京都世田谷区成城6-2-1)
- ③ 議案
  - 第1号議案 定款の変更(案)について
  - 第2号議案 「評議員選任・解任委員会運営細則」の制定について
  - 第3号議案 評議員選任・解任委員会委員の選任について
  - 第4号議案 評議員選任・解任委員会に提案する「次期評議員候補者」の選任について

### (3) 第3回理事会・評議員会

- ① 開催日 平成28年11月25日(金)
- ② 開催場所 成城ホール4階 集会室C・D (東京都世田谷区成城6-2-1)
- ③ 議案
  - 第1号議案 平成28年度事業報告(中間)(案)について
  - 第2号議案 平成28年度各会計収支補正予算(案)について
  - 第3号議案 諸規程の一部改正について
    - (1) 経理規程

### (4) 第4回理事会・評議員会

- ① 開催日 平成29年3月29日(水)
- ② 開催場所 成城ホール4階 集会室C・D (東京都世田谷区成城6-2-1)
- ③ 議案
  - 第1号議案 平成28年度各会計収支補正予算(案)について
  - 第2号議案 平成29年度事業計画(案)及び平成29年度各会計収支予算(案)について
  - 第3号議案 諸規程の一部改正(案)について
    - (1) 運営基本規程
    - (2) 組織及び職制規程
    - (3) 職務権限規程
    - (4) 文書取扱規程
    - (5) 就業規則

- (6) 非常勤職員就業規則
- (7) 介護休業規程
- (8) 育児休業規程
- (9) 給与規程
- (10) 経理規程

第4号議案 役員等の改選、会長・理事長、監事及び参与の選任、常務理事の指名について

第5号議案 施設長の配置換え、任免及び再雇用について

(5) 第1回評議員選任・解任委員会

- ① 開催日 平成29年1月24日(火)
- ② 開催場所 (福)友愛十字会 別館2階会議室(東京都世田谷区砧3-9-11)
- ③ 議案  
第1号議案 新評議員の選任(案)について

### 3 本部事業等の実施状況

(1) 障害者支援普及事業

- ① 第41回合同運動会は、引続き総裁瑤子女王殿下が実行委員長としてご臨席になり、新たな女王杯を御自ら御選定され、昼休憩のアトラクションでは、大型のバルーン操作のデモンストレーションをご披露いただいた。今年度は、学習院大学が日程的に参加困難となり、運営が心配されたが、昨年に引続き「純国産ボイス」の歌の披露や、NPO法人「ジャパンスポーツコミュニケーションズ」代表米司氏の参画を得て、盛会裏に開催することができた。

ア 期日 平成28年10月23日(日)

イ 会場 世田谷区総合運動場体育館

ウ 主催 合同運動会実行委員会

友愛十字会、世田谷区身体障害者福祉協会、ガールスカウト東京都第61団・第72団、ボーイスカウト世田谷第10団、世田谷区I K K福祉協会、日本体育大学社会体育研究会、慶應義塾大学ライチウス会、学習院大学応援団、世田谷区社会福祉協議会

エ 後援 世田谷区

オ 参加者 578名 うち当法人参加者は229名(40%)であった。

当法人の内訳 利用者(障害者)48名・(高齢者)58名、職員等123名

- ② 「第50回宮様チャリティボウリング大会」及び「第40回障害者ボウリング大会」への協力  
平成28年10月27日初代総裁三笠宮崇仁親王殿下のご薨去に伴い、瑤子女王殿下はご欠席となられた。当法人は、社団法人日本ボウリング場協会主催の宮様チャリティボウリング大会及び障害者ボウリング大会に協力した。一般の部では、男子235名と、女子96名が参加した。障害者の部では、男子95名、女子23名が、プロボウラーから指導を受けた後、障害者の大会でハイレベルな熱戦を展開した。終始、和やかな雰囲気であった。

ア 期日 平成28年11月13日(日)

イ 会場 品川プリンスホテルボウリングセンター(港区高輪4-10-30)

ウ 主催 日本ボウリング場協会(顧問 佐々木典夫会長)

エ 協力 社会福祉法人 友愛十字会

オ 参加者 北海道、東北、関東、東海、関西、四国、九州から各地区の予選通過選手及び団体

推薦、障害者推薦の 331 名が決勝戦に臨み、障害者は関東から九州までの 118 名が参加した。うち、当法人からは、26 名（22%）が参加した。

カ 優勝者	宮様チャリティボウリング大会	
	男子の部 佐藤貴啓（NBF 推薦）	226 点
	女子の部 中川 遥（愛媛）	245 点
	障害者ボウリング大会	
	男子の部 布施宏治（一般）	431 点（2 ゲーム）
	女子の部 松清俊子（一般）	353 点（2 ゲーム）

③ 機関紙「ゆうあい」

3 月に No. 44 を発行した。

(2) その他の事業

世田谷施設、板橋区の東京聴覚障害者支援センター、町田市の友愛荘及び港区立障害保健福祉センターは、それぞれ地域の町内会・商店会、後援会、ボランティア、施設利用者家族等の参加を得て、相互理解と連携を深めることを目的に次の事業を実施した。

① 世田谷施設

ア 盆踊り大会

- (ア) 期 日 平成 28 年 7 月 20 日（水）
- (イ) 会 場 友愛十字会内庭
- (ウ) 主 催 友愛十字会
- (エ) 協 賛 砧町町会、TMC 通り商店街、友愛十字会后援会
- (オ) 参加者 2,100 名（外部のみ）

イ 友愛ふれあい祭

今年度より、三峯神社の例大祭に開催日程を合わせ、御輿を招くことで街ぐるみのイベントとしての発展を目指して開催した。

- (ア) 期 日 平成 28 年 10 月 2 日（日）
- (イ) 会 場 友愛十字会敷地・施設内
- (ウ) 主 催 友愛十字会
- (エ) 協 賛 友愛十字会后援会、砧町町会、TMC 通り商店街等
- (オ) 参加者 1064 名（外部のみ）

ウ 感謝の集い

- (ア) 日 時 12 月 16 日（金） 15:30～17:00
- (イ) 場 所 世田谷施設 本館 1 階第 2 多目的室
- (ウ) 主 催 友愛十字会
- (エ) 参加者 招待者 153 名中の 52 名（うち後援会会員 52 名中の 6 名）

② 世田谷施設以外

ア 東京聴覚障害者支援センター

- (ア) 盆踊り大会 7 月 30 日（土）
- (イ) 餅つき大会 1 月 8 日（日）
- (ウ) ボランティアの受入れ（学習、盆踊り・踊り指導、外出支援、ほか諸行事協力）

イ 友愛荘

- (ア) 地域交流納涼盆踊りの集い 8 月 24 日（水）

(イ) ボランティアの受入れ (クラブ活動、盆踊り・踊り指導、他行事支援)

ウ 港区立障害保健福祉センター

(ア) ヒューマンぷらざまつり 10月30日(日)

#### 4 事業所設備の整備状況

本年度、本部及び施設において助成金等で整備を行った状況は、次のとおりである。

##### (1) 助成金等による整備

(単位：千円)

区分	整備事項 (助成者)	整備を必要とする 理由・内容	請負業者	金額
世田谷更生館	就業情報システム一式 (東京馬主協会)	利用者の出退勤管理のため	アマノ株式会社	助成金 1,500 自己 768 計 2,268
友愛園、友愛デイサービスセンター	別館エレベーターリニューアル工事 (東京都共同募金会)	老朽化及び故障多発のため	東芝エレベーター株式会社	助成金 8,000 自己 7,654 計 15,654
友愛荘	介護ロボット等導入支援 特別事業補助金(町田市)	介護従事者の介護負担軽減のため	日本物産株式会社	助成金 927 自己 0 計 927
砧ホーム	見守りケアシステム10台 (東京都)	介護負担軽減およびベッドからの転倒防止のため	フランスベッド株式会社	助成金 2,546 自己 445 計 2,991
砧ホーム	マッスルスーツ2台 (東京都)	介護負担軽減のため	株式会社 イノフィス	助成金 1,287 自己 225 計 1,512
砧ホーム	シルエット見守りセンサ 5台(東京都)	介護負担軽減およびベッドからの転倒防止のため	キング通信工業株式会社	助成金 1,195 自己 209 計 1,404
砧ホーム	介護用リフト3台 (東京労働局)	介護負担軽減および持ち上げない ケア実践のため ベッドへの移乗用器具	キング通信工業株式会社	助成金 619.5 自己 619.5 計 1,239
砧ホーム	見守りケアシステム3台 (世田谷区)	介護負担軽減およびベッドからの転倒防止のため	フランスベッド株式会社	助成金 897 自己 0 計 897
砧ホーム	Ipod touch 8台 (東京都)	シルエット見守りセンサ 使用に必要となるため	キング通信工業株式会社	助成金 220 自己 39 計 259
計	9件			助成金 17191.5 自己 9959.5 計 27151

##### (2) その他の整備 (100万円以上の事業)

(単位：千円)

区分	施設整備・設備の名称	設備内容	契約者	所要額
世田谷施設	本館・別館通路屋根設置工事	雨天時の利用者横断に対応するため	海藤工務店	5,213
世田谷更生館 友愛園	スチームコンベクションオープン	老朽化した設備の更新	日本給食設備株式会社	1,042
更生館 友愛園	請求ソフト	保守終了に伴う更新	NDソフトウェア株式会社	2,356

東京聴覚障害者支援センター	防犯カメラ設置工事	安全性向上のため防犯カメラ、受像機の更新	セコム株式会社	1,403
友愛ホーム 砧ホーム	本館ダムウェーター リニューアル	老朽化による不具合が見られるため	中央エレベーター工業株式会社	1,965
砧ホーム、砧 デイサービス センター	本館1階厨房洗浄機 の購入	老朽化による故障多発のため	日本給食設備株式会社	1,076
港区立障害保健福祉センター	レスパイト801号室 改修工事	レスパイト施設と801号室の通路確保と客室への改修	優雅堂	港区負担
計	7件			13,055

## 5 事業所の概況

(平成29年3月31日現在)

区分	施設の種別 (開設年月日)	所在地	土地	建物	利用者 定員	
社会福祉施設	世田谷更生館 (館長 村上正裕)	指定障害福祉サービス (S37. 9. 28)	法人本部 〒157-0073 世田谷区砧 3-9-11	m <sup>2</sup> 2,157.36	60	
	友愛園 (園長 江原徳至)	障害者支援施設 (S53. 5. 1)		2,087.94	60	
	コーポ友愛 (ホーム長 江原徳至)	身障福祉ホーム (H 3. 8. 1)		781.90	20	
	友愛デイサービスセンター (センター長 木村浩二)	身障デイサービス (H 4. 4. 1)		321.76	(20)	
	友愛ホーム (園長 金井 博)	養護老人ホーム (S31.12.24)		2,086.59	70	
	砧ホーム (園長 宮崎 浩)	特別養護老人ホーム (H 4. 4. 1)		1,865.56	60	
	砧デイサービスセンター (センター長 宮崎 浩)	老人デイサービス (H 4. 4. 1)		540.89	(60)	
	砧地域包括支援センター (センター長 山本恵理)	老人居宅介護等事業(H18. 4. 1)	〒157-0073 世田谷区砧5-8-18	—	—	
	東京聴覚障害者支援センター (所長 高橋秀志)	障害者支援施設 (S40. 7. 25)	〒174-0056 板橋区志村2-19-5	(913.78)	(980.47)	30 (10)
	友愛荘 (園長 藤田康子)	特別養護老人ホーム (S49.11. 1)	〒194-0203 町田市図師町989	4,550.80	2,059.80	78
	港区立障害保健福祉センター 地域活動支援センター (施設長 松本光正) こども療育 パオ (施設長 田口美登里) 工房アミ (施設長 太田政美) みなとワークアクティ (施設長 神田市郎)	(H10. 4. 1) 地域活動支援センター 療育発達相談 生活介護事業所 就労継続支援B型 事業所	〒105-0014 港区芝1-8-23	(4380.06)	(24321.61)	(40) (40)
	計			10,639.35 (5,293.84)	11,910.68 (25,302.08)	378 (176)
	事業所	第一作業所(友愛書房) (責任者常務理事 金井 博)	身障法第22条の 売店(S25.12. 1)	〒100-0013 千代田区霞ヶ関 1-2-2中央合同庁舎5号館B1F		
砧介護保険サービス (センター長 宮崎 浩)		居宅介護支援事業 (H12. 4. 1)	〒157-0073 世田谷区砧3-9-11			
合計			10,505.05 (5,293.84)	11,910.68 (25,302.08)	378 (176)	

備考1 土地・建物欄の( )は指定管理施設の面積

備考2 東京聴覚障害者支援センターの土地と建物は東京都所有のため( )で記載している。

備考3 定員欄の( )は通所定員